

愛知県立芸術大学

平成 29 年度「教員による自己点検・評価シート」(自己評価) についての報告書

愛知県立芸術大学 大学評価作業部会 2018/03/23

愛知県立芸術大学(以下、「本学」と記す)では、「教員による自己点検・評価シート(以下、自己点検・評価シート)」を基にした自己点検・自己評価を平成 21 年度より実施しています。具体的には、年度初めに各教員(客員教授を除く専任教員)が、「研究活動」「教育活動」「大学運営」「地域貢献」について計画と目標を立て、年度末に自己評価をするもので、「29 年度自己点検・評価シート」は、30 年 2 月初旬に「実績・自己評価」を記入し、30 年 3 月 15 日に教員評価会議を開催し、「自己点検・評価シート」に基づき教員評価を行いました。

■美術学部

美術学部では専任教員(育児休業 1 名を除く)47 名中 45 名が「自己点検・評価シート」を提出しました(回収率 95.7%)。

・研究活動

各教員は「計画・目標」において、それぞれの専門分野における研究内容や具体的な制作・研究成果の発表(展覧会・学会活動等)・受託事業・産学連携事業・研究論文などについて記述しました。今年度記載内容の特色として科研費や産官学連携によるプロジェクトや受託研究の進捗状況及び結果についての記載件数が増加しています。「実績・自己評価」については、大半の教員が「計画どおり実行し目標を達成した」あるいは「おおむね達成した」とする評価をしています。反面、計画の遅延、研究時間の確保を今後の課題とする記載が若干でしたがありました。

・教育活動

各教員は「計画・目標」において、学部、大学院博士課程での授業科目を列挙して計画を示し、その内容と目標を記述しています。従来からの国際交流、大学間の交流協定に関係した授業、学外での実践的な授業に加え、卒業生支援講座やアートマネジメント講座など新たに立ち上げた教育活動の記載も数件ありました。「実績・自己評価」において、計画どおり実行し目標を達成したとして、9 割程度の教員が高い評価と中程度の評価をしています。

博士課程の授業においては指導方法など授業の取り組みについて今後の課題を記載している教員が若干ですが見受けられます。より専門的な教育に真摯に取り組んでいることが伝わります。

全体の記載内容から多くの教員が教育活動の時間確保に努めた実態がうかがえます。

・大学運営

各教員は「計画・目標」において、担当する各委員会、役割などを記載しました。ほとんどの教員は複数の委員会を兼任し、委員会にまったく関わらない教員はいません。大半の教員が「実績・自己評価」において、委員会活動や大学の運営に積極的に参加したと記載しています。反面、大学の事業(大学の改修に伴う施設整備、入試広報活動や国際交流)に時間を割く教員が増えています。大学運営に関わる頻度にも違いがあり、大学運営と研究活動にかかわる時間調整を今後の課題とした記載が若干ありました。

・社会貢献

各教員は、各種審査委員、学外講師・講演、展覧会企画・運営、サテライト講座、文化財団などの委員、ギャラリートーク（アーティストトーク）、ワークショップなど、様々な形で本学の教員として社会に関わり、地域貢献に努めています。地域関連事業、地域再生の取り組み、子供の美術教育講座や障害者美術教育支援など社会から求められる内容も多岐にわたります。研究活動との関係から今後さらに産官民と連携した幅広い社会貢献が予測されます。「計画」において具体的な記載がなかった教員は僅かです。「実績・自己評価」において、9割以上の教員が高い評価と中程度の評価をしました。

■音楽学部

音楽学部では専任教員（客員教授・休職教員を除く）35名中31名の教員が「自己点検・評価シート」を提出しました（回収率 88.6 %）。

・研究活動

各教員は「計画・目標」において、それぞれの専門分野における研究内容や具体的な創作・研究・演奏会・学会活動・執筆・プロジェクトなどについて記述しました。「実績・自己評価」については、大半の教員が「予定通りおこなった」あるいは「おおむね達成した」とする評価をしています。研究時間の捻出、研究環境の確保に苦心していることが過半数の教員の記述から読み取れます。年間の研究活動について個別に評価している教員が多く、客観的でわかりやすい記載が定着してきました。

・教育活動

ほとんどの教員は「計画・目標」において、学部、大学院、他大学での教授科目を列挙して計画を示し、その内容と目標を記述しました。「実績・自己評価」において、計画どおり実行したとして、ほぼ全員の教員が「高い評価」「概ね充足との評価」をしています。ただ、多岐にわたる学内業務のため新たな教育活動への取り組みを企図企画しつつ時間不足から今年度は見送った、とする教員もいました。実技指導が根幹となっている現場での教育の難しさを感じましたが、全教員が真摯に教育に取り組んでいることが明示されました。

・大学運営

各教員は「計画・目標」において、担当する各委員会、役目などを記載しました。ほとんどの教員は複数の委員会を兼任し、委員会にまったく関わらない教員はありませんでした。「実績・自己評価」において、計画どおり実行し目標を達成したとして、大半の教員が高い自己評価をしています。多くの委員会を兼務している状況も明らかになりました。大学メール等の普及定着により、委員会運営が徐々にスマートになりつつありますが、却って休日業務、在宅業務が増えている問題も見取れます。

・社会貢献

各教員は、コンクール審査委員、学外講師・公演、演奏会企画・実行委員、文化団体主催講座、行政機関諮問委員、ワークショップなど、様々な形で地域貢献に努めています。「実績・自己評価」において、9割近くの教員が高い評価と中程度の評価をしました。

■まとめ

本学の教員評価規程に則って、平成 30 年 3 月 15 日に開催された「平成 29 年度教員評価会議」において、「自己点検・評価シート」を主たる資料として当該年度の教員評価対象者が選考され、26 名（美術 15 名、音楽 11 名）の教員が今年度の教員評価対象者として選出されました（評価対象者は全教員の 31.0%）。

この「自己点検・評価シート」の記入は平成 21 年度から始まり、9 年を経て本学の大学教育への自覚的な取り組みの中に定着してきました。表記の内容・分量などが過不足なくなされ、提出期限などについてもほぼ守られています。

教員各自が自身の活動を大学における職務に生かすために点検・評価をし、大学がその評価を教員各自の活動に反映させ「自己の向上と大学の質の保証」双方に資することが「教員による自己点検・評価」の理念であり、相互の取り組みが本学の教育全般に活かされています。